

茨木市立豊川小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | やや課題が残る結果であった |
| ②我が国の言語文化に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ③A話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった |
| ④B書くこと | 課題が残る結果であった |
| ⑤C読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 課題が残る結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
話し合いの様子の中で、発言の理由として適切なものを選択する。
- ・もっとも正答率の低かった設問
立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。

分析

「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」の設問で正答率が高かった。話の中心を捉えるためには、話し手が伝えたいことと自分が聞きたいこと両方の中心を明確にしなければならないので、話題や友だち、先生の話に興味・関心を持って聞いたり、自分の意見や考えを話したりすることを、普段の授業、生活の中で大切にしてきた成果と考えられる。反対に正答率が低く、全国の正答率とも開きが大きかったのは「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」と「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良い所を見つける」の設問であった。どちらも記述式の問題であり、字数の制限や文章中からの抜き出し、引用を求められるなど、複数の条件を満たして文章表記しなければならないので、初めて読む文章の読解と、表現の工夫などに課題があることが分かる。また、ある一文が文章構成上、どういう位置づけなのかを考える問題も正答率が低かった。これらのことから、今後の学習の中で音読や通読を大切にして文章全体を把握し、発表の場面で根拠となる部分を示すことができるような力を育てる授業を展開していきたい。また、多くの文章と出合うため、さらに読書活動の活性化をすることと、条件作文などの書く力の育成に取り組んでいきたい。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|---------------|
| ①A数と計算 | やや課題が残る結果であった |
| ②B図形 | 課題が残る結果であった |
| ③C変化と関係 | 課題が残る結果であった |
| ④Dデータの活用 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ もっとも正答率の高かった設問
被乗数に空位のある整数の乗法の計算。
- ・ もっとも正答率の低かった設問
果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたとき、果汁の割合は変わるのか。

分析

変化と関係領域の、割合の正答率が非常に低い結果となった。 $0.3=30\%$ のような百分率の換算や、全体量の何%がどれだけの量になるのかなどが定着していないことが分かる。特に「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたとき、果汁の割合は変わるのか。」という設問が最も正答率が低く、「数量が変わっても割合は変わらない」という認識が弱かった。割合の学習で教科書には出てこない内容であるので、割合については概念を習得するような反復学習を行うとともに、理科など教科を越えた学習や日常生活の中での経験を学習に生かす力を育成していきたい。

プログラミングを通した図形の設問では、「長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く」の設問で全国平均を上回る正答率を得た。基本的な図形の性質や構成の仕方について習熟していると言える。しかし、同じ図形のプログラミングの問題でも、途中まで図示されている(視覚的にヒントとなる)設問は良いが、それがなく、頭の中で1から組み立てる設問では全国平均を大きく下回る正答率であった。今後、図形の単元の学習の際、そういった設問も出題し、自分で図形をイメージできる力を身につけられるように意識して取り組んでいきたい。

基礎的な計算の領域は概ね良好な正答率であった。今後も宿題や休み時間・放課後の学力保障(SSR)、算数パワーアップなどの取り組みで反復学習を継続し、基礎学力の定着・向上を図りたい。

理科

(領域ごと)

- | | |
|--------|---------------|
| ①エネルギー | やや課題が残る結果であった |
| ②粒子 | 課題が残る結果であった |
| ③生命 | やや課題が残る結果であった |
| ④地球 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問
見出された問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。
- ・もっとも正答率の低かった設問
問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。

分析

実験器具の名前を答える問題での正答率が、全国平均よりも著しく低かった。指導の際に基本的な用語などを丁寧に確認したり、実験等の準備を可能な限り児童に委ねたりすることで、器具の名称なども定着するように取り組んでいきたい。また、複数の情報の中から必要なものだけを選び、文章に書き加える設問での正答率も低く、国語科とも関連付けて、理科においても言語活動を意識した指導も必要である。

「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」という設問では、全国平均よりも高い正答率は得られたものの、エネルギー領域（光の性質）全体では正答率が低く、無解答率も高い設問があった。この単元の子どもたちの授業への関心は高く、実験を楽しみながら感覚的に学ぶ様子が見られるが、確かな知識及び技能につながるように、まとめや考察を丁寧に行う必要がある。

質問紙調査の結果、「理科が好き」と回答している児童が全国平均よりも多くいるにも関わらず、全体的に課題が残る結果となったのは、理科は実験や観察などの活動が多く、興味・関心が高いものの、その結果から考察し、自分の言葉で表現する力が定着していないため、学んだことを自分のものにできていないことが考えられる。今後より一層、実験から得られた情報を整理する力と、自分の考えを文章化することなどの言語活動や、新たな疑問につなげられるような課題設定を迫及していきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

今年度は算数、国語ともに課題が残る結果となり、全国よりも平均正答率が下回っている。

質問項目の「算数が好きか」では全国平均を上回っており、本校で進めている『聴き合い学び合う授業づくり』の成果を感じる反面、「国語が好きか」では下回る結果となり、国語の授業研究について見直す必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度より学力高位層が増加した。低位層も増えたが、エンパワー層は減少していることから、底上げができつつあると考えられる。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行以前と比較すると大きく下がってしまっていることから、感染対策を行いながら学力を保障する取り組みを研究していく必要がある。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

授業づくり・・・「聴き合い学び合う授業づくり」を豊川中学校区で取り組み、教職員が子どもの姿から学んだことを話し合い、共有しながら授業力を伸ばし、子どもたちが意欲的に取り組める授業をめざす。ペアやグループ活動を通して、一人も取り残さない、全員参加の授業づくりに取り組む。

家庭学習・・・生活アップ月間として年3回（6月、11月、2月）家庭学習と生活リズムの向上に重点的に取り組み、家庭や子どもたちに意識を促す。
普段から25分休み、昼休みには授業で分からなかったところや課題が残っている子を支援する学習室を開放し、放課後には算数の宿題を中心に支援を行っていく。（SSR）
家庭学習（宿題）の出し方も再度検討し、作業的にならず、思考を促す内容を増やす。

読書活動・・・週2回の朝読書は、教職員も一緒に読書をし、集中して読む環境をつくる。
木曜日の朝読書の時間には、校内で共有できるよう同じ図書を使って「ペア読書」を行った後、言語活動を行うことを意識して内容について感想や意見を交流する。
スクールサポーターとともに、より図書館利用が高まり、本を好きになる子どもたちが増えるように教室や図書室の環境を整える。
大学生やボランティア、保護者、教職員シャッフルの読み聞かせなどを行う。
図書の授業時間の有効活用を検討し、従来より行っているおすすめの本紹介などを、より一層楽しみ、関心を持ちながら行うことができるように工夫する。

学習準備・・・理科の実験器具や体育の用具などを子どもたちに意図的に準備させることで、器具の名前を覚えたり、取り扱い方を理解したりできるようにしていく。

書く力育成・・・記述する（書く）力は国語の学習だけでなく、他教科においても育成を意識していく。
例、学習のふりかえり、理科の実験・観察後の考察、社会科などで根拠を示して自分の考えを表す活動など

文章に慣れる・・・初めて読む文章に対する読解力を高めるため、読書活動とも連動して多くの文章と触れる機会を増やすとともに、文字数制限や指定された語句を使用した条件作文にも、学年に応じて取り組んでいく。

豊川スタンダード…学校生活や授業に関して、共通して理解しておくことを明文化したり視覚化したりして子どもたちに意識化させる。